テーマ

地域一体となった『津波を想定した避難訓練』の実施について
～　自分の命は自分で守る力を育てる　～

鹿児島県屋久島町立宮浦小学校

Ⅰ　学校の概要（立地状況等含む）

本校は，屋久島町の北部，宮之浦川の河口付近，海抜４ｍに位置し，南海トラフ地震等が発生すれば，確実に津波に飲み込まれてしまう。

地域には，津波発生時に児童生徒を含めた住民の自立的避難を目指す「平和町海岸地域津波対策協議会」（以下，津波協）という防災組織がある。

本校では，津波協と連携しながら，津波を想定した避難訓練を平成30年度から，隣接する中央中学校及び地域住民とともに実施している。

Ⅱ　避難訓練の取組の概要

１　取組の内容，方法等

(1)　震度４以上の地震が発生し，津波が想定されるという設定のもと，児童全員がかけ足により海抜25ｍ地点までを地震発生から15分，海抜40ｍ地点までを20分で避難完了するという目標を掲げて避難訓練を行う。

(2)　中学校や地域住民と合同で行う避難訓練を，避難に要した時間，避難行動や避難ルート上の課題等について，校内だけでなく，津波協と検証する中で，避難訓練に実証実験的な要素も持たせ，訓練の実効性を高めている。

(3)　屋久島高校とも連携し，合同で避難訓練を行うだけでなく，最終避難場所の確保や非常食の備蓄等の協力をもらっている。

２　避難訓練の内容とねらい

(1)　年度当初に訓練を実施。「自分の命は自分で守る」を合い言葉に，児童には事前指導で緊張感を持たせ，訓練に対し実践的態度で臨ませる。

(2)　一次避難（安全な場所に身を置く），二次避難（体育館横へ学級ごとに集合），三次避難（津波に備え，揃った学級から屋久島高校へ向けてかけ足避難）の三段階の避難行動を避難指示に従って行う。

(3)　津波協や地域住民，保護者と連携することによって臨場感が高まり，訓練中の安全確保や避難行動の記録に協力をもらった。

３　避難訓練実施までに工夫したこと

(1)　隣接する中央中学校や津波協，屋久島高校と，効果的な訓練になるように事前の打ち合わせを行った。

(2)　係が最終避難場所（屋久島高校清和館）の下見を行い，避難する全児童・生徒が避難できるかの確認を行い，避難後の指導場所について確認した。

(3)　避難後に体調を崩す児童が多いという昨年度の反省を受け，別途水筒を運搬した。

４　避難訓練の状況

(1)　地震による津波発生を想定した避難訓練の実施

ア　開催期日	令和３年４月26日
イ　参加者	全児童・生徒，教職員（宮浦小・中央中・屋久島高校） 保護者（宮浦小・中央中） 平和町住民
ウ　その他	警察との連携（誘導など） 避難後の備蓄品の搬入 緊急車両の準備（２台）

(2)　避難訓練の実際

【避難の様子】

屋久島高校を目指して，長い坂道を一気に駆け上がり，６年生は１年生の手を引く。

中学生が左側，小学生が右側で各一列避難が原則。

【教育講演会】

津波協会長を講師に迎え，保護者を対象に教育講演会を行った。「津波発生時に学校に子供を迎えに行ってはいけない」との忠告。

５　取組の成果と課題

(1)　成果

ア　津波が到達すると想定されている時間までに全員が避難することができた。

イ　入学後，早い時期に実施するために，職員を含めて，津波時の避難についての共通理解を深めることができた。

ウ　中学校・高校，地域，保護者との連携により，校区一体となって「子供，住民の命を守る」意識が高まってきた。

(2)　課題

ア　決められた時間での訓練では，一定の成果を上げていると言えるが，昼休みや登校中など，指導下にない時に不測の事態が発生した場合に対応できるかが課題である。

今後は，予告なしでも避難行動ができるための訓練を実施したい。

イ　災害時の備蓄品が非常食だけなので，防災用品の充実を年次的に進めたい。